

6年 社会科学学習指導案

平成23年12月8日(木) 4校時

指導者 小林 雄二

活動場所 6年教室

- 1 単元名 大単元 「戦争から平和へ」
小単元 「15年続いた戦争 ～忠魂碑に込められた思い～」

2 小単元の目標

満州事変から原爆投下、終戦にいたる15年続いた戦争の過程を調べる活動を通して、日本はアジアに大きく進出して多くの被害を与えたことやアメリカなどとの開戦により暮らしが戦時体制下に移行したことを理解し、戦争の長期化による被害の拡大や学区にある忠魂碑に込められた意味に気づくとともに、この戦争に対する自分の考えをもつことができる。

3 子どもと単元

(1) 子どもの実態(男子4人、女子8人、計12人)

「今から70年前の戦争」について知っていることを記述するアンケートでは、原爆や敗戦の事実は書かれていたが、約9割の子どもたちは、戦争の規模(対戦国、戦地等)や空襲などの被害の様子をほとんど知らなかった。身近な人で直接戦争を経験している人が少なくなる状況の中、学区の忠魂碑や長岡出身の山本五十六、隣接する長岡に起きた空襲を取り上げることで、戦争に深い関心を寄せ、尊い命が数多く失われた事実を追求するだろう。

また、学級は12名という少人数のため、全員が発言する時間は確保しやすいものの、意見をかかわらせた話し合いは少なく、一部の子どもたちの意見に引きずられてしまう傾向が強い。したがって、本単元では、単に事実の認識で終わる授業ではなく、当時の人々の様々な思いを知ることによって、戦争の是非を巡る判断も含めて意見交流の場を意図的に保障したい。

また、「学習のまとめ」のノート記述は、どの子も確実に書けるようになってきたが、事実の記述のみの子がいたり、表面的な感想しか書けない子がいたり、個人差が大きい。事実を的確にとらえ、さらに、事象の意味を自分なりに考えた「学習のまとめ」を書ける力を子どもたちにつけさせたい。

(2) 単元について

地域には、戦死した方が135名おり、学区にその英霊を奉る大きな忠魂碑が建立されている。小さい地域だが、立派な忠魂碑が建てられた背景には、戦没者へ地域の鎮魂の思いが強く感じられる。その忠魂碑から学習をスタートし、最後は、忠魂碑を建立した地域の思いに迫りたい。また、隣接している長岡の空襲を幼い頃に山から見ているという方もいて、戦争の被害を身近に感じられる事象が残っている。それら地域の歴史的事象と日本や世界の事象を結びつけて学ぶことで、歴史を身近にとらえ実感的な理解を促す単元としたい。

さらに、日清・日露戦争以来、戦争の拡大路線を取り続けてきた日本の動きについて自分なりに考えたり、話し合ったりする活動を組織することで、平和や命の尊さを真剣に考えられる子どもたちを育てたい。地域にある2つの並び立つ忠魂碑(一つは明治戦役、一つは大東亜戦争)は、そのことを子どもたちに強く語りかけてくれている。

(3) 対象児 (A子 H/M)

理解力に優れているが、やや感情にむらがある。何でも自分でしないと気が済まず、お節介などを極端に嫌う。その反面、友達に流されやすい面があり、一緒にいる友達によって態度が変わる面も見られる。ノートは、丁寧に作ろうとする意識が強く、イラストや色を工夫しながらまとめるゆとりもある。しかし、「学習のまとめ」の記述では、歴史的事象のまとめは的確にできるが、それについての感想や思いの記述はいつも少ない。事実をとらえることに価値を見出し、歴史的事象の意味を深く考え、感情が揺さぶられる経験があまりない。したがって、調べた事実を発表することは得意だが、それについての考えを求める発問では、意見を言うことを苦手としている。

4 指導の構想

(1) 願う児童の姿

15年続いた戦争の原因や経緯を進んで調べ、戦争の事実と向き合い、平和や命の尊さについて自分の考えや意見をしっかりとる子

(2) 願う児童に迫るための手立て

①地域の歴史的事象と日本や世界全体の事象を効果的に組み合わせながら単元を組織する。

②分かった事実を根拠として自分の思いや願いをノートに書き留めたり、友達にしっかりと伝え合ったりする活動を通して、戦争という歴史的事象を自分なりにとらえられるようにする。

5 指導計画 (本時5 / 11)

次	時	学習活動	児童の思考の流れ	◎支援 ・学習材 ☆評価規準
1	2	<p>■学区にある戦没者の墓や戦没者名簿などから、田井地域も戦争とつながっていることに気づき、学習計画を立てる。</p>	<p>○どのような戦争で135人の尊い命が奪われたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争の様子 ・日本の人々の様子 ・戦争の被害の様子 ・戦後の人々の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・北谷にある忠魂碑、裏の名簿 ・椿沢町にあるお墓 ・「北谷の歴史」の戦没者名簿 <p>☆15年にわたる戦争について調べていこうとする意欲をもち、学習計画を立てることができる。(関心・意欲)</p>
2	1	<p>■多くの人々が満州に渡った理由や、満州事変、日中戦争と戦いが広がっていった経緯を調べる。</p>	<p>○なぜ、日本は満州を支配しようとしたのだろう。</p> <p>○中国との戦争が全面化した様子を調べよう。</p>	<p>◎写真や地図を使い、国内外の動きと人々の暮らしの変化について気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見附の開拓団 ・中国侵攻の地図 <p>☆戦争年表の作成を通して、国内外の動きが大きく動いたことに気づく。(知識・理解)</p>
	2	<p>■戦域がアジア・太平洋地域に拡大していった経緯を調べる。</p>	<p>○中国との戦いの他に、アメリカやイギリスとも戦争を始めた理由はなんだろうのだろう。</p> <p>○日米の国力を比べながら、戦争のゆくえについて話し合う。</p> <p>○日本の支配がアジアの人々にどのような被害をもたらしたのだろう。</p> <p>○太平洋諸島でのきびしい戦いの様子を調べよう。</p>	<p>◎東南アジア進出でフランスやイギリス等の利害を脅かしたこと、欧米と戦うドイツとの同盟の動き、アメリカの中国支援や対日経済封鎖など当時の社会情勢を総合的にとらえさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍人ながら三国同盟や日米開戦に反対した山本五十六の考えと行動 ・五十六の死、南洋諸島での戦い ・軍部の台頭 226事件、515事件 <p>☆国内外の事情から戦争が拡大していく理由をとらえる。(思考・判断)</p>
3	2	<p>■戦争中の人々の暮らしの様子を調べる。</p>	<p>○物資が不足していく中の国民のくらしを調べよう。</p> <p>○生活の変化、戦争へ向かう考え方、協力体制などについて調べてまとめよう。</p> <p>○戦争に協力していく子どもたちの様子を調べよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種法律の制定、物資不足配給制 ・家族への聞き取り調査 ・国家総動員法 ・国債の発行 ・「ほしがりません勝つまでは」 <p>☆戦争と国民生活の変化を関連づけてとらえることができる。(知識・理解)</p>
4	3	<p>■空襲が拡大する中ね国民が受けた戦争の被害の大きさを調べる。</p>	<p>○写真や資料から被害の様子を読み取ろう。</p> <p>○体験者への聞き取りなどで被害の大きさをつかもう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡空襲を見た田井の人々 ・長岡空襲の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡空襲の戦災者名簿 ・長岡戦災資料館見学 ・各地の空襲の写真と新聞記事 <p>☆隣接する長岡で起きた空襲について、意欲的に調べることができる。(技能)</p>
	1	<p>■敗戦に至った経緯を調べ、人の命の尊さを考える。</p>	<p>○15年目のできごとを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄、広島、長崎 <p>○終戦の時の人々の思いや日本の支配から解放されたアジアの人々の思いを考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種写真資料 ・実際の映像 <p>☆戦争で人々が受けた被害の大きさに気づき、戦争に対する考えを深めることができる。(思考・判断)</p>
5	1	<p>■戦争新聞を作って、戦争に対する自分の考えを全校に伝える。</p>	<p>○戦争の学習を終えて、伝えたいことを新聞にまとめて全校に知らせよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小見出し、社説を工夫して、新聞記者のように書こう。 ・忠魂碑の写真を貼り、建立に込められた地域の人々の思いを書く。 	<p>◎自分の主張に合った内容を選択して、自分の意見を入れられるように助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忠魂碑の写真 <p>☆これまでの学びを生かし、自分の意見を入れた新聞が書ける。忠魂碑に眠る地域の人々の思いを自分のことのように書きつづることができる。(技能)</p>

6 本時の計画

(1) ねらい

日本の東南アジア進出による米英との開戦について、戦争が始まった原因や経緯を調べたり、戦争の拡大の是非を巡る話し合いを通して、当時の日本の選択や戦争のゆくえについての自分の考えを確かにもつとともに、日米開戦回避を願った長岡出身の山本五十六の思いについて自分なりの考えをもつことができる。

(2) 本時の展開の構想

- 「つかむ」では、戦争拡大を選択した日本についての問題意識を醸成する。そのため、アメリカとの国力差の資料を活用する。
- 「もとめる」では、戦争拡大の原因や経緯を自作資料から読み取る活動を行い、当時の情勢も踏まえながら、戦争拡大について互いの考えを交流する。
- 「ふかめる」では、連合艦隊司令長官の山本五十六の願いや行動を提示し、きびしい戦争に突き進む日本について、自分の考えを深める。

(3) 本時の展開

分節	学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	指導上の留意点
つかむ 10分	日中戦争が長期化する中、大国アメリカやイギリスとも戦うことになったことを理解し、学習問題を立てる。	<p>前時 100万人の兵を送った日中戦争が 膠着状態に陥っていることを学んでいる。</p> <p>T1 そんな中、日本はアメリカやイギリスとも戦争を始め、アジア・太平洋地域に戦域が拡大していきます。</p> <p>これまで以上に大変な戦いになっていくのに、なぜ戦争を拡大するの。兵隊をさらに増やさないといけなくなる。</p> <p>どうしてアメリカやイギリスと戦う必要があるんだろう。アメリカは航空機の数が3倍もあるのに。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○多数の子どもたちは「早く戦争を止められなかったのか」という思いでいる。 ・イギリス軍やアメリカ軍との戦いの写真 ・日米の国力の違いを比較する。 ○戦争拡大について、自分の意見をノートに書く。その後、ペアで意見交換し、全体で発表する。 ・意見が出尽くしたら、本時の学習問題を作る。
もとめる	◎について資料を調べる。	<p>◎なぜ、日本は、アメリカやイギリスとも戦争を始めたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカとイギリスは、日中戦争で中国を支援していたからだ。 ・日本が石油やゴムなどの資源を求めて東南アジアに進出していったからだ。 ・アメリカは、日本に石油と鉄の輸出を禁止した。 ・日米交渉で、アメリカは日中戦争を終わらそうとしていた。 <p>T2 戦争が拡大していくことについて、みなさんは、どう思いますか。</p> <p>ドイツと組んで本当によかったのか。アジアでは、孤立してこれまでもより激しい戦いが待っていると思う。</p> <p>あれだけ国力の差があったのか。アメリカとは、戦われない方がよいと思う。だれも反対しなかったのか。</p> <p>※当時、最後まで戦争拡大に反対していた軍人がいたことを紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○まず数人の子どもに予想させ、その後、資料の読み取りに入る。 ○日本を取り巻く当時の世界情勢がわかる自作年表を提示し、そこから考えられることを読み取らせる。 ○ノートに自分の考えを書かせ、その後、グループで意見交換する。 ☆当時の社会状況の中、戦争のゆくえについて自分の考えをノートに書き、意見交換ができる。(思考・判断)
深める 30分	戦争拡大に対する自分の考えをもったり、意見交換したりする。	<p>T2 長岡出身で連合艦隊司令長官となった山本五十六の資料を読んで、感想を言ってください。</p> <p>ドイツと組むことは、米英と戦うことを意味したんだ。命がねらわれても自分の考えを貫く人が長岡出身なんですすごい。</p> <p>当時、五十六のように冷静な判断ができる人はいなかったのか。だれかが日米開戦を阻止していれば、早く戦争は終わっていたかも。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの国力を熟知し、ドイツとの同盟に反対。軍人でありながら日米開戦を避けたかったが、真珠湾攻撃を立案し指揮を執る五十六の思い。 ☆山本五十六の考えに自分の思いを加えて考えを書くことができる。(思考・判断)
ふり返る 5分	日米開戦を選択した日本について、自分の考えや思いをノートにまとめる。	<p>T4 「今日の学習のまとめを書きましょう。」</p> <p>日米開戦で日本は益々苦しくなったと思う。みんなが不幸になるだけだった。当時、正しい判断をする人がいなかったのが悲しい。</p> <p>戦争を早く終わらせてほしかった。五十六の考えが通ってれば、日本は大きな被害を出さなくて済んだかもしれないのに。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆日米開戦に至るまでの国内外の様子や五十六の考えにふれながら、学習のまとめを書くことができる。(知識・理解)

日米開戦反対を唱えた 連合艦隊司令長官 山本五十六(長岡出身)

はやくから石油・航空機などの大切さに着目し、航空隊の教頭や司令官を歴任して航空隊の整備を急いだ。武官時代にアメリカやイギリスの軍縮会議に全権委員として参加し、その時アメリカの国力や軍事力の大きさを知った。そして、ドイツ・イタリアとの三国同盟に猛反対し、多方面から命をねらわれた。そのため、連合艦隊司令長官となり海上勤務となった。日米開戦には最後反対したが、軍の方針により、1941年12月8日の真珠湾攻撃(日米開戦)の指揮をとることになり、必敗の戦争を何とか「短期決戦・早期講和」に持ち込もうとした。しかし、その後アメリカに連敗し、1943年4月兵隊激励のために訪れていたブーゲンビル島で米航空機に撃墜され、戦死した。

① 《武官時代の五十六の言葉》

デトロイトの自動車工場とテキサスの油田を見ただけでも、「世界の孤児」となった日本の国力で、建艦競争(軍艦づくり)もアメリカ相手の戦争も、とうていやりきれるものではない。

② 《海軍中央本部の計画を否定する五十六》

「ナチス・ドイツの勝利を前提に南方の資源地帯を占領。石油・ゴム・鋼材をおさえ長期戦に持ち込み、ドイツ軍と協力して英中ソを弱らせ、戦意を失った米と講和条約を結ぶ」という考えは、全くの夢物語として、五十六は否定した。

※英・イギリス、中・中国、ソ・ソ連現ロシア

③ 《上官にアメリカとの戦争の作戦の立案を命じられた時の五十六の返事》

「是非やれといわれれば、初めの半年や1年は、ずいぶん暴れてごらんにいれます。しかし、2年、3年となつては、全く確信は持てません。三国同盟が結ばれたことはことは不本意ですが、こうなつたならば、日米戦争の回避に極力ご努力を願いたいと思います。」

④ 《最後まで日米開戦をさけようとする五十六の姿勢》

真珠湾攻撃の時「日米交渉が成立した場合は、ただちに反転帰還せよ。」という山本に対して、無理と答えた部下にいった言葉。「百年間兵を養うのは、ただ平和を守らんがためなり。命令に従えぬなら、今から出動を禁止する。即刻辞表を出せ。」

《日中戦争の長期化～アメリカ・イギリスとの開戦までの年表》

1937年	7月	日中戦争が始まる →長期化、各国からの非難
1939年	5月	ソ連(現ロシア)と衝突する
1940年	9月	中国に物資を援助していたアメリカ・イギリスの補給ルートを止めるため、フランス領インドシナ北部に兵を進める
1940年	9月	日独伊三国軍事同盟が結ばれる (日本・ドイツ・イタリア)
1941年	7月	戦争に必要な石油などの資源を求め、フランス領ベトナムに兵を進める
1941年～		日本に対する貿易を制限するA B C D包圍網ができあがる (アメリカ・イギリス・中国・オランダ)
1941年		日米交渉が始まる
1941年	8月	アメリカが日本に対する石油の輸出を停止する
1941年	12月9日	日米交渉が失敗する。日本は、ハワイの真珠湾の米艦隊を攻撃し、日米戦争が始まる

【この頃のドイツの動き】

1939年 9月 となりの国のポーランドへ侵攻する
 1940年 6月 フランスへ侵攻、フランス降伏
 1941年 6月 ソ連へ侵攻
 1942年 2月 北アフリカへ侵攻

☆領土を次々に拡大していく。

【日米交渉の内容】

アメリカが提案した日本に石油などを輸出し続けるための条件

- ① アメリカが、ドイツに宣戦しても、日本は黙っている
- ② アメリカは、自衛のためいつでも日本への石油や鉄の輸出を禁止できる
- ③ ドイツとの三国同盟を破棄すれば、日中戦争の和平条約の仲立ちをする